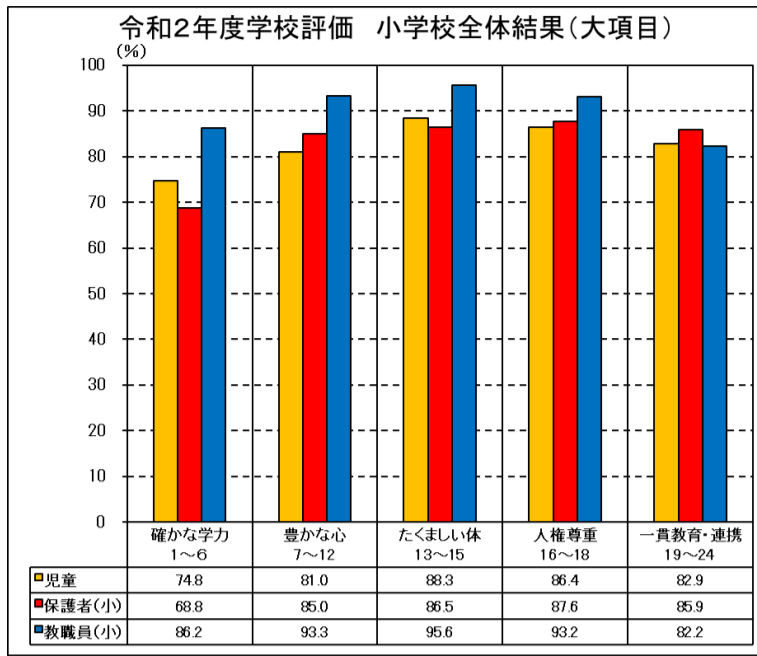


# 1 小学校対象別全体結果 (「よくあてはまる」「あてはまる」の合計)



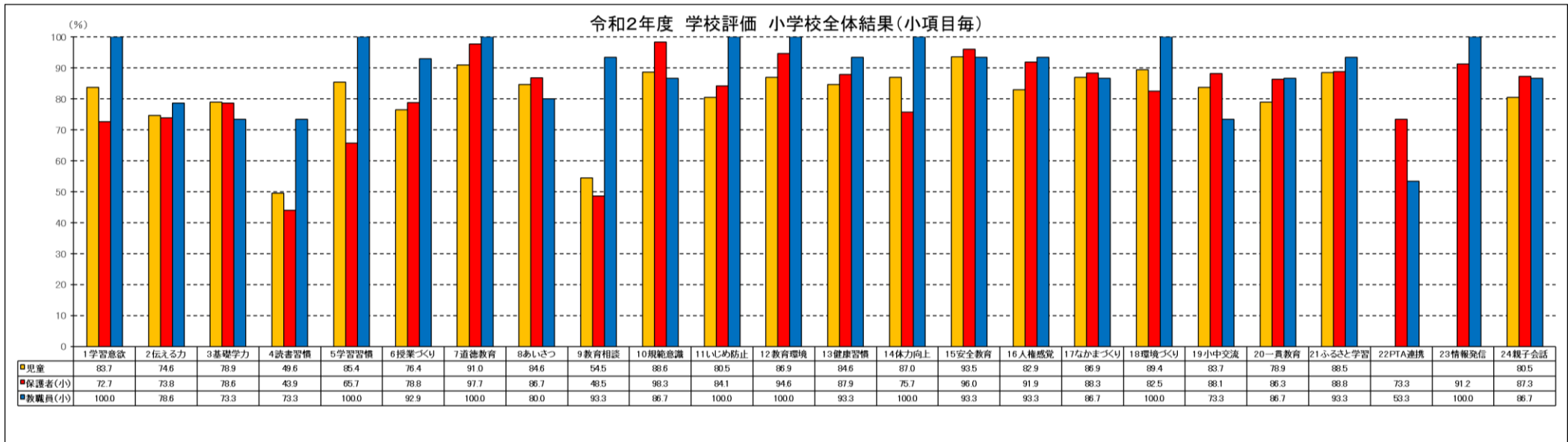
**【確かな学力】(小項目1～6)**  
 ○学力に関して、教職員と児童・保護者との意識のずれが大きい。家庭と更に連携し読書習慣や学習習慣の定着に取り組む必要がある。また、「わかった・できた」と実感できるまとめと振り返りの時間を充実させていく必要がある。

**【豊かな心】(小項目7～12)**  
 ○道徳教育やあいさつ、規範意識の評価は高い。本校の取組の成果が表れていると考えられる。  
 ○教育相談、いじめ防止の評価が教職員は高く、児童・保護者の評価が低い。特に教育相談は意識の差が大きい。保護者と連携した個々への対応をさらに強化するとともに、いじめ防止のための細やかな気配りと家庭の教育力を高める手立てを講じる必要がある。

**【たくましい体】(小項目13～15)**  
 ○活動制限があり、本校で継続してきた体力向上の取組が十分でなく、児童や保護者が実感できていない傾向にある。  
 ○健康習慣の乱れが学習習慣や運動習慣に悪影響を及ぼす事例が増えており、家庭と連携した健康習慣の確立が急務である。

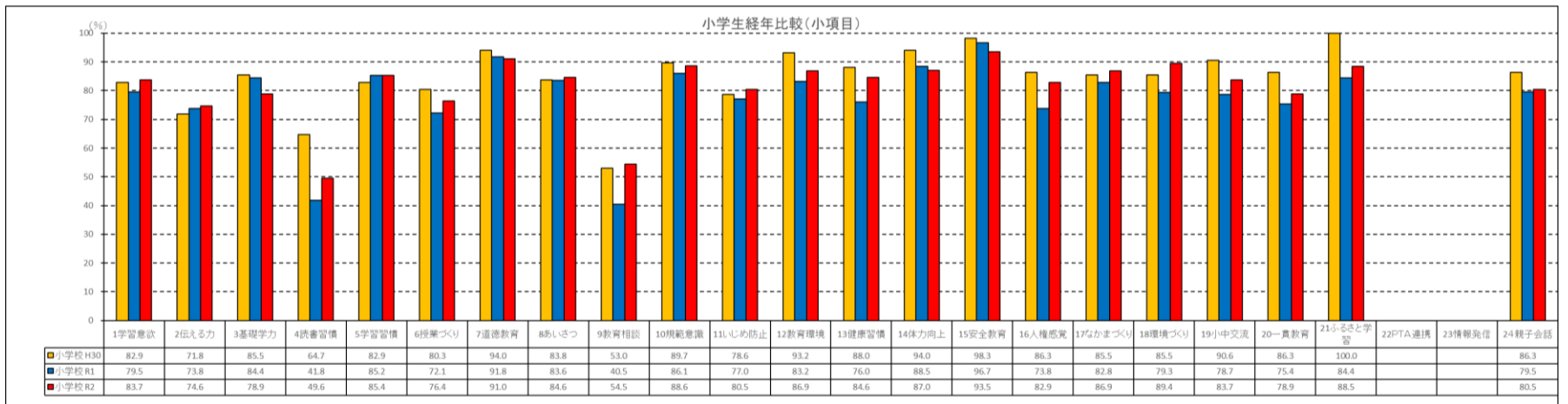
**【人権尊重】(小項目16～18)**  
 ○人権教育の成果が表れており、全体的に評価が高い。

**【小中一貫教育・連携】(小項目19～24)**  
 ○小・中で連携した取り組みは例年に比べ激減したが、運動会や公開授業などを通じて、全体的に評価が高い傾向があり、例年とほぼ同じ状況である。  
 ○情報発信については、学級通信、学校だより、メール配信などを続けてきた結果、評価がとても高い。  
 ○PTA活動については、当初計画されていたことがほとんどできていない。しかし、保護者の評価はあまり下がっておらず、保護者の意識と教職員との意識の差がさらに顕著になってきている。

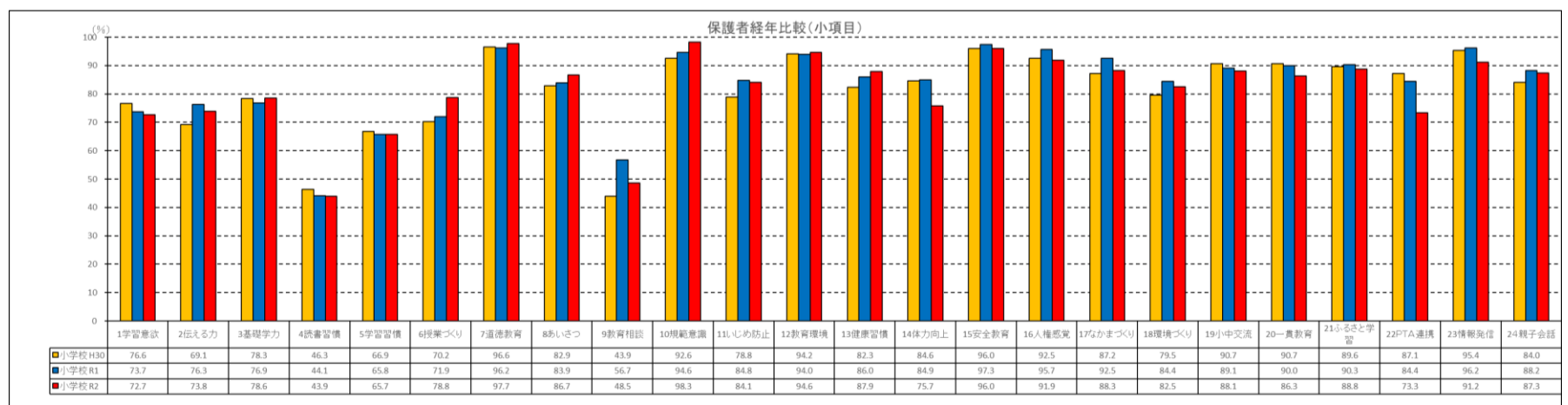


## 2 対象別経年変化 (平成30年度から)

### (1) 児童



### (2) 保護者



### (3) 教職員

